

令和 8 年 6 月行事予定

教務課より

●期末考査について

6 月 24 日（水）から期末考査が始まります。成績が良くなければ進級や卒業ができなくなることがあります。以下のことに心掛け、しっかりと学習をして期末考査に臨めるように、御家庭での協力をお願いします。

- ①規則正しい生活パターンを確立する。
- ②考査の対策は 2 週間前から始める。
- ③苦手教科は早くから念入りに学習する。

生徒課より

●衣替えについて

昨年度から制服の移行期間はなくなりました。夏服になると、シャツ出しや下着の違反など身だしなみが乱れがちになります。御家庭におかれましても、夏服のさわやかな着用について御指導をお願いします。

○男子

シャツ：白のカッターシャツとする。色ものや柄物、ボタンドアウンのシャツは禁止。ただし、開襟シャツは認める。
ベルト：黒、濃紺、または茶色。ベルト幅は 3 センチ程度とし、細いものや光るものは禁止。

○女子

ブラウス：本校指定のもの。
スカート：丈は膝が隠れる程度のものとする。

○男女とも下着は無地（ワンポイントまで）を着用のこと。男子は白、女子は白、黒、グレー、ベージュ。

●身だしなみ指導について

6 月は身だしなみ指導を実施しません。指導はありませんが、日頃から身だしなみを整えて生活することが大切です。身だしなみ指導のときだけでなく、日頃からの御指導をよろしく願います。



1	月	(5/9(土)の振替休日) 家庭学習記録開始(6/1～6/30)	
2	火		
3	水	全校朝礼	
4	木		
5	金		県 総 体
6	土		
7	日		
8	月	校納金口座振替 ☺	
9	火	卒業アルバム部活動写真撮影(6/9～6/12)	
10	水	②③④用水施設見学(3年:紙のまちコース) ②③もち米田植え交流会(3年:アグリ) ⑥グループ結団式	
11	木	アルバイト説明会	
12	金	①～③3年実力診断テスト&1・2年スタディサプリ 到達度テスト 日本漢字能力検定① 紙に関する講演会	
13	土	大学入学共通テスト模試(3年)	
14	日		
15	月		☺
16	火		
17	水	期末考査発表 ⑥避難訓練 学年集会(全学年)	
18	木	尿検査(最終日)	
19	金	⑥総探(卒業生によるキャリアガイダンス)	
20	土		四 国 総 体
21	日	第152回全商ビジネス計算実務検定試験	
22	月		
23	火	⑤⑥巡回型介護教室(3年 生活と福祉)	
24	水		期 末 考 査
25	木		
26	金	3年生保護者対象進路説明会	
27	土		
28	日		
29	月	卒業アルバムグループ・3年生全体写真撮影 ☺	
30	火	運動会団役員会① 学年集会(全学年) 土居中学校一日体験入学(午後)	

☺…スクールライフアドバイザー来校日

御意見・御感想は電話またはFAXでお願いいたします。

電話：0896-74-2017 FAX：0896-74-7221

6月 土居高だより

3学年主任 土居 宏興

まだ教員になって間もない頃、外国人の友人（カナダ人）を連れて地元のうどん屋に行った。昼時の店内は湯気と出汁の香りに包まれ、客たちが麺をすすする音が心地よく響いていた。日本人にとってはごく自然な光景を横目に、私もいつものように熱々のうどんをすすった。少し経って、ふと顔を上げると、向かいに座る友人がわずかに眉をひそめている。嫌悪というほどではないが、明らかに戸惑いが混じった表情。箸を止め、「あ、もしかして音が気になる？」と尋ねると、友人は少し申し訳なさそうに、「うん、ちょっと驚いた。こっちでは普通なの？」と返してきた。その言葉に、私はハッとした。日本では麺をすすする音はマナー違反ではなく、むしろ料理を楽しんでいる証として肯定的に受け取られることもある。しかし、欧米文化圏では、食事中に音を立てることは無作法とされることが多い。自分にとっての「当たり前」が、別の文化では「不快」に分類されることを、友人の表情から実感した。その後、私は日本の食文化について説明し、友人は自分の文化圏でのマナーを教えてくれた。互いの価値観を押しつけるのではなく、「そういう違いがあるんだね」と笑い合えたことで、距離が縮まったように感じた。

この出来事を通して、私は「異文化理解」とは単なる知識ではなく、日常の中でふとした瞬間に気づき、驚き、対話を通じて深まっていくものだと学んだ。自分の“普通”は、他者にとっての“非常識”かもしれない。だからこそ、違いに出会ったときに立ち止まり、相手の背景にある文化を想像することが大切である。

社会に出れば、多様な背景を持つ人々と出会う場面が増えるだろう。そんな時には、違いを恐れず、むしろ楽しみながら受け入れる姿勢を大切にしてほしい。そして、異文化の違いやギャップを埋めるために、目の前の相手と積極的にコミュニケーションを取り続けてほしい。相手の話に耳を傾け、自分の考えも率直に伝えることができれば、誤解や偏見を減らし、どんな相手とでも豊かな人間関係を築くことができるはずだ。年齢が離れていても、国籍が違っていても、お互いが一歩ずつ踏み出せば、必ず距離は縮まるのだから。

これから、異文化との素敵な出会いを通して、みなさんの「当たり前」がどんどんアップデートされていくことを心から楽しみにしている。

